



園田家は、江戸時代にあつて篠山藩の用達を勤めた大庄屋である。この園田家は、藩政下において大庄屋（今田組）を任命されその支配にあつていた。

当園田家文書は天保～嘉永期（1830～1854）にかけてのもので、今田村における新田開発や立杭焼の座方経営に関する史料が含まれている。特にその中でも、座方経営史料は、江戸時代後期における立杭焼の商品流通や市場を考える上で貴重なものとなっている。

総数232点。



立杭三ヶ郷焼物趣法書